

## 主蒸気逃がし安全弁排気管の耐震クラスについて

## 1. 概要

本資料では、主蒸気逃がし安全弁排気管の耐震クラスの考え方について示す。

## 2. 主蒸気逃がし安全弁排気管の耐震クラスについて

表1に主蒸気逃がし安全弁排気管の耐震クラスについて、建設時工事計画認可と今回工事計画認可の考え方を示す。

表1 主蒸気逃がし安全弁排気管の耐震クラスについて

		建設時工事計画認可	今回工事計画認可
D / W 内	耐震クラス	Bクラス	Bクラス（S s機能維持）
	考え方	地震により主蒸気逃がし安全弁排気管が破損したとしても、D/W内に放出された蒸気はベント管を通してS/Cのプール水中に導かれて凝縮するため、格納容器内圧が有意に上昇することはないことから、Bクラスの定義のうち「原子炉冷却材圧力バウンダリに直接接続されていて一次冷却材を内蔵しているか又は内蔵しうる施設」に準じる。	同左
		—	先行プラントの新規制基準対応工認の記載及び実設計を踏まえて、基準地震動S sに対してD/W内の主蒸気逃がし安全弁排気管が破損しないことを確認する。
S / C 内	耐震クラス	Aクラス	Sクラス
	考え方	地震により主蒸気逃がし安全弁排気管がS/C内の気相領域で破損した場合、原子炉格納容器の圧力抑制装置（ダイヤフラムフロア、ベント管）としての機能が損なわれることから、Aクラスの定義のうち「原子炉格納容器圧力低減装置」の一部を構成するとみなしている。	同左 （耐震設計に係る工認審査ガイドより、Aクラス→Sクラスと読み替え）